

銀漢亭日録



伊藤伊那男

4月23日(火)▼「ひまわり会館」の「萩句会」選句。戻ると朝妻方

さん、俳人協会賞予選委員二度目の務めで打ち合わせの帰りと。村上軞彦、今泉礼奈夫婦。生後一ヶ月の貴彦君お披露目に。「青垣」の方々五名。「ひまわり句会」あと九名。山田真砂年さん。

24日(水)▼家、次女杏子来たけれど選句で話でせず。店「雛句会」九人。終わって二十一時、閉めて帰宅。

25日(木)▼朝から選句選評詰める。店「閨句会」九人。松山さん元会社同僚と。小島健さん。「港」主宰・大牧広先生。四月二十日ご逝去と。「蛇笏賞」受賞されてよかった。

26日(金)▼十四時、毎日「俳句aあるふあ」の中島三紀編集長とカメラン氏来て、連載の「一句一葉」の撮影。五品目出し、これで一今年の写真は終了。店、「俳壇」社長、安田編集長、菊田、佐怒賀直美さん。高校先輩の井ノ口氏と新橋の三重子姐さん。「金星句会」あと八人。さあこのあと十連休。

27日(土)▼品川発の新幹線乗車。シウマイ弁当。名古屋まで熟睡する。一時、新大阪に集合。五十人。バス二台で高槻市の「今城塚古墳」へ。本物の継体天皇陵だと言われており、感激ひとしお。古墳の上まで歩けるとは！案内していただいた樋口さんというボランティアガイドさんは八十歳というが、かつ舌もよく動きも俊敏で力を貰う。京都の「ザ・パレスサイドホテル」に入り、事前投句の披露の俳句大会・親睦会。棚山波朗主宰もお元氣に入京。

28日(日)▼昨夜、二十三日過ぎに寝たので五時、爽やかに起床。京都御苑の杜に鎌形の月が掛かり美しい。明けると新緑が眩しく、木の間から比叡山も見える。「俳句aあるふあ」の原稿などを書く。八時発、丹波市青垣町へ。細見綾子生家訪問。小学生が綾子作詞の

の歓待を受ける。酒は「磯自慢」。酔って私は一眠り。東海道線小田急を乗り継ぎ、二十二時帰宅。家族は京都。

2日(木)▼終日家。彗星集評送り、六月号の原稿終了。「俳句aあるふあ」の原稿三ヶ月分。吟行会のエッセイ八百字「春耕」へ送る。礼状他雑務。一日酒抜く。

3日(金)▼十一時半、鎌倉駅。光汪、井蛙の伊那北高校同期、太田うさぎ、天野小石、甲土三郎(小石兄)、いづみ、展枝。寿福寺の虚子の墓、実朝の墓。廃仏毀釈まで鶴岡八幡宮寺にあった仁王像拝観。八幡宮の牡丹園、白旗神社吟行あと、二階堂の小石さん実家、高橋家(甲土)へ。日影茶屋から弁当取り、句会と宴会。酒は「雪の茅舎」「手取川」。庭の筍一本貰い、散策しながら鎌倉へ。小町通りの中華料理店に入り、二次会。二十三時帰宅。

4日(土)▼終日家。阿波野青畝についての講演会用意に没頭。酒抜く。五日、六日も家。

7日(火)▼十日振りの店。閑散。二十一時過ぎ閉める。新潟日報、信濃毎日新聞社より記載記事届く。

8日(水)▼二階「梶の葉句会」選句。店、水内慶太、アキラ、ユウさん。「きさらぎ句会」あと五人。「宙句会」あと十三人。「薫風」創刊三十五周年記念大会事前投句の選句。

9日(木)▼店、「極句会」プラス「十六夜句会」合同句会十九人。あと、洋、清人、井蛙さん来て、グーヴクリコ開栓。

10日(金)▼「大倉句会」あと十九人。

11日(土)▼十時、運営委員会。街は神田祭の雰囲気。十三時、「銀漢本部句会」。五十九人。あと「上海庭」にて親睦会。十五、六人か。外に出ると神輿一基が揉み歩いている。

12日(日)▼「俳壇」七月号のインタビュ記事の校正など。昼寝。礼状など。十六時から成城散歩。みつ池緑地は国分寺から続く「はけ」。喜多見不動など。夕食は蕎麦、蓮根炒め、鮎山椒焼、パクチーのおひたしなど用意。

校歌で迎えてくれる。高座神社の「でで虫」句碑、通った女学校など廻り、柏原駅にて私と武田さんは皆と別れ、電車で伊賀上野へ向かう。伊賀にて大野田井蛙さんと合流。ともかく酒場の無い町。ようやく一軒捜し当て、伊賀の酒「半蔵」「るみ子の酒」「義左衛門」など。「ホテルルートイン伊賀上野」泊。

29日(月)▼七時四十分の伊賀鉄にて伊勢に向かう。秋の吟行会の下見。十時、おはい町「あびや」で朝食。鯛の兜煮。内宮参拝し、神宮会館視察。外宮の参拝。十四時、「若柳」(豚捨)へ。神宮元禰宜、遷宮時の広報室長河合真如氏にお招きいただき、最高級の牛肉網焼きを御馳走になる。河合氏と吟行打ち合わせ。

十八時、「ルートイン松阪駅東」投宿。武田さんはもう食べられないと言っているので大野田さんと町へ。二十年前に印象深かったホルモン屋「一升びん」へ。その後、発展して今やこの地を代表する有名なチェーン店。結局かなり食べ、かなり飲む。ハラミ、レバー、タン、松坂牛のタン、酒三合ずつ。あと、「北熊ラーメン」でつけ麺と餃子。……やつてしまった。

30日(火)▼朝食抜く。九時過ぎ、三井家発祥の地。本居宣長家など散策して松阪城。雨の中。本居宣長旧宅(鈴屋)。改めて宣長の凄さに驚嘆。与力長屋を経て、樹敬寺の宣長の墓を詣つ。あと一升びん本店。昨夜に続き食べる。飲む。ああ……。十六時前、松阪を後にする。名古屋迄昏睡。十八時、静岡。静岡北ワシントンホテルプラザ逗留。おでん横丁に繰り出し、静岡おでんを楽しむ。大野田さんの幼友達相原節子さんと三人。

5月1日(水)▼令和初日の朝、曇天。八時半、ホテルを出て、駿府城へ。天守台発掘現場を訪ね、ビデオ見学。ボランティアの説明を受ける。県庁21階の展望台から城と町を俯瞰。富士山が雲の中ながら輪郭わかる。家康もこれを毎日見ていたのだ。十一時半、熱海駅。唐沢静男君、金井硯児さんの出迎えを受け、網代の唐沢家へ。洋子夫人もお元氣。刺身、煮物、蕨、熊汁、鰯のひらき、などなど

13日(月)▼六月号校正。編集部へ渡す。店、「かさぎ俳句勉強会」あと十一人。洋さん、橋野さんなど……。全体閑散。

14日(火)▼店「火の会」十一人。樺末知子さん久々来店。「火の会」の選句して貰い、一緒に酒宴。他、閑散。

15日(水)▼杉阪大和句集最終校正。エッセイ一本。店、「三水会」七人(堀部君友人の京都の仁井田さん)、深川知子さん。「大倉句会」運営会の面々。伊那北二年先輩というドイツ語の先生、安藤勉さん。

16日(木)▼「銀漢句会」あと十三人。『然々と』再版なる！

17日(金)▼発行所「鶯句会」選句。あと店へ六人。広渡敬雄さん。九州大学同期五人の会。赤穂中学の先輩今井さん久々。協会賞受賞を知ったと祝いに。

18日(土)▼十四時、日本橋「鰯の与志喜」。井蛙さんと私とで日本酒三本持参。協会賞受賞の二回のパーティーのお手伝いしてくださった仲間への感謝の食事会。北辰社、武田さんと秋葉男さんの配慮。二十五人。皆、楽しんで下さる。あと十名ほどであったか居酒屋で少々。帰宅して家族と食事。

19日(日)▼終日家。信濃毎日新聞、詩歌欄へエッセイ。中村孝哲さん句集稿確認作業。

20日(月)▼信州、柏原の池田充さんという方、訪ねて来て下さる。マブソン青眼さんと親しい様子。「演劇人句会」八人。

21日(火)▼十一時、咸亨酒店「萩句会」百回記念の昼食会にお招きいただく。十六人。あと発行所句会で選句。店閑散。てる緒さんと久々話。「江戸城天守を再建する会」の秋山事務局長他。

22日(水)▼「雛句会」十三人。津田卓さん生還！脾臓の三分の二、十二指腸、胆嚢全部、胃の一部切除して三週間で退院。

23日(木)▼俳人・住宅頭信を映画化した「ずぶぬれて犬ころ」の監督本田孝義さん。三笠書房の押鐘会長「然々と」を信州の友人に渡したいと五冊。あと閑散。